七十二候鈔

貞享刊

七十二候鈔

立春初一候東風解氷（ヲ）　立春二月の節なり東方の春風吹きて氷を解かすなり初の候なり次に水の始めて氷を凝（こり）て氷となる次に三候合て十五日にて一気なり次に一候とは三百六十日を年中七十二候に分て二十四気の次の一候驚蟄虫始振（テウシン）　次の一候驚かすと雷声にて虫とりの穴を出て動くなり次の候に桃の花咲なり次の候に桜の花咲なり次の候に桃の花咲なり次の候に桜の花咲なり

七十二候鈔

次の一候魚負氷上（テヲル）　淮南鴻烈解に魚を網に附

の属となるなり是陽気の地下より沸出よりて河
らなるほどにて此一候より氷解て氷を乱河
ならんとする頃より雉雛の沢辺に氷のうすくなる頃氷
の一候獺祭魚 頃の八月の中気に当りて
や草木もそろそろ枯る頃より獺の沢辺に多くあつまる
つと水色にすこしあらはれる頃の景色を
とるべしとなり此頃より獺の魚をまつるといへり
淮南鴻烈解云獺水禽也取鯉魚於水邊
四面陳之世謂之祭魚
月令廣義云獺一名水狗徐氏曰獺祭圓
鋪圓者水象也

次候雁北 月令淮書作鴻鳥北候なり
なるもしるす象海云鴻之性者趾方近於陰
故不眠而能飛 雁は陰鳥なり陽
気の動くに従て陰鳥の北へ帰るもの
なり雁は陽鳥なり陰気の動くに従て
南へ帰るなり
此の頃の気は陽気の動くに従て
陰の気の動くなり
陽の方の動くに従て
陰の方の動くなり
三才圖繪云鳳一名朱鳥霜降南翔氷洋
北徂其性惡熱故中国始温而北至
後漢書本瑞芽 物の芽の出る頃陽気の動くに
陽の方の動くに従て
陰の方の動くに従て

[illegible]
月令廣義云天地氣交泰故草木萌生発
動也

[illegible]の一候桃始華　[illegible]二月の[illegible]
質桃李花開ル二月の[illegible]
二十四[illegible]
の初の一候より四月立夏の[illegible]の三候まで合[illegible]
二十四候にして百二十日[illegible]
[illegible]の一候より梅[illegible]
[illegible]の二候より[illegible]三候[illegible]
くるり

此事五雜俎蟲海集錦繡万花谷等[illegible]
[illegible]二月の[illegible]桃
[illegible]
倉庚鳴　倉庚公[illegible]章亀経云
倉清也庚新也感春陽清新之氣而初出
故名又曰黄鳥曰搏黍曰黄袍僧家謂金
衣公子其色黧黒又名黧黄[illegible]畫[illegible]
[illegible]
[illegible]
二月の[illegible]
[illegible]

[illegible]

月令廣義云鳩即布穀仲春之時鷙鳥喙尚

柔不能捕鳥瞪目忍飢如痴而化故曰鳩

鳩

陸佃埤雅曰蔡邕月令云鷹化為鳩鷹鳩

屬也鳩凡五種鷹為鷂鳩應陽而變則啄

柔仁而不鷙

陶弘景曰虎聞声而深伏鷹見形而高飛

鷹鷙鳥也一名鷂鳩左傳曰鷂鳩氏司寇

蓋鷹鷙故為司寇

周礼羅氏仲春獻鳩於國老鄭玄注云以

鷹化為鳩変舊為新宜以養老助生氣

春分玄鳥至　[illegible]

録蟲海集云飛禽屬陽故晝飛鳴而夜棲宿と
いへり燕は陽の鳥にして陽氣とこのむものなり
故に春分に来りて秋分に去る巢は梁の上に作りて
分れ住して水方鳥巣の故郷へ帰るに去る媒氏の友
として燕の到り来るを待つて嫁娶をなすなり
庭の王樹とは今の合歓なり陽よりして海すると
雀業をとるとあるは風に乗じて板一枚を羽翼
として鳥獣の如くにして遠に飛ぶなり
次の雷乃発聲　雷は陽の奮動するなり
冬は陽氣の閉ぢ籠りて地中に伏して
居たる陽氣の出でんとして地中より
出でんとする陽氣の発揚して物を
雷といふ雷は陽の聰明なる氣
鴻濛の博覽なるものとなり
すべて天地の間に陰陽ありて
つもりて散じて生をなす陽は陽氣のこと
なるこの四へに陽氣ありあつまりて発して風となる
雷となる雷は陽のいきほひなり
陽氣陰氣相ひ合して物を成す時は陰氣
凝結して雷となるなり陽氣の内に凝結して
ありて外の陽氣いんとする時陰氣に
入るとあり陰陽とは物にありて風となるなり風は

[illegible]陽気の周流する所の風よりおこりて
いんを雷のゑ形ちをなしていなづまや近代或人の記に
ならく羽州庄内の地より雷遥にうつりて海を
[illegible]所々あり又偶ひとつのものありと俗に[illegible]
とうの長さ柳葉の如し股ありと記して云く古人
所説なれども雷斧にてもいまだ石を見ず
斧の角ひとつにして又雷のなすわざのものよりしば
雷りと陽気ありて天より下りくるものもあ
とあるくものなり[illegible]形ちはいかゝ
見あらはしてあるゝ図泰の代もいまだ見ず
後の人のたゝへる又世のつたへにも雷

[illegible]して屋宇をも破り樹をさくこと[illegible]
[illegible]陽の気さかる時[illegible]陽気時をうしなひ
[illegible]して雷となる偶[illegible]怒の気よりの
[illegible]と[illegible]又滅亡すれども雷[illegible]ること
に世俗わるよわるしたもしのつのわるるれ古今
[illegible]雷ようにくるもの[illegible]
[illegible]の巣のごとくして[illegible]
[illegible]のわるすゆるものや
[illegible]の写[illegible]電　電は陽の光なり陽気微弱なる
時は[illegible]陽二[illegible]て陽気はよ
くうんかりてたゝへのりて雷光の気より陰気よ

わかなのさうかく電初てすくるるり
清明初の一候桐始華　清明を三月節とおよそ云
ふ〳〵二十四番花信の風の始て一候に桐
始華とかくこれ三月の末のなりて
桐の花ひらくさくさうり
月令廣義云桐有三種華而不實曰白桐
爾雅所謂榮桐木也皮青而皓實曰梧桐
一曰青桐淮南子謂梧桐斷角也生山岡
子大而有油曰油桐毛詩謂梧桐不生之山
岡也今始華白桐也埤雅謂桐與天地合
氣者也今造琴瑟以花桐是白桐也

次の首四番化蜀　四番を　淮南鴻烈解ニ
腧鼠こゝろ多蠶編ニ四番鼠曜番とあるり四
番八蟲類ものとなり蠶ものこゝろの
中に氣をうけて三月に成ものなり
出くるものは陽氣にうけてよりこれ
らまて蜀とあるり蜀八陽類　或問曰いかゝ四番の
蜀とするるや　曰蜀ものこゝろ
番とするるり如さこゝとり氣化とこゝ
ろ如さ初め蟲の類ものこゝろ
あるこゝと八自然ものこゝ蟲化
蜀となるもの化こゝてあり
番ものこゝろ化こゝてあり

[illegible]

注疏曰虹是陰陽交會之氣朱子曰日与

兩交天地淫氣也

朱子曰陰陽之氣不當交而交者蓋天地之淫氣也

理孝類編云蔡邕曰陰陽不和而生此氣異苑曰古者有夫妻荒年菜食而死俱化成青絳故俗呼為義人虹

穀雨初の一候萍始生

穀雨三月の中氣なり萍始め陽氣の地中より出て陽氣の水に浮て萍となるなり

曆解曰萍陰物靜以兼陽也

儀礼通解よ嫁娶の時帰宅の初

其鳴也とあるより鳴るの心なり農業を
なするのさとし時を知りて鳴くさとしを
てらく民の農業をもつとめすすめたり
後の有戴勝降桑 詩経鳲鳩の篇の注に鳲鳩戴
勝今之布穀やと云るを出典に桑の木にて
てとあるより降桑の字を始て天より降るなどと
いへるは黄鳥の桑に降て桑を食と云意
筐に蚕事畢て桑を筐に入れ后妃もみな手ひく
ひとりつゝ桑をとるを婦女とあるのを
ら桑とるとは婦女にあたれるなり

三十才 圖繪云戴鵀似山鵲而尾短青色尾

冠俱有文絲如戴花故呼戴鵀又称戴勝
三月の末四月の初なり
蠦蝈鳴 三月の末なり蠦蝈鳴
さへまりつゝく注に下ようする時なり和名抄
蠦蝈やと俗称する蛙なり蠦蝈名氏養秋に鄭
玄蠦蝈なり蝈を蛙蟇なりとあり
又回気抄云注に蠦蝈名氏養秋に鄭玄注
廣雅義云蠦蝈好夜出俗名土狗一名蠦蛄
一名鼫鼠一名蠦蝈有五能不能成一
技飛不能過屋緣不能渡谷
穴不能覆身走不能先人故説文称鼫為

王瓜

五ノ技之畢ト旦

次の五日蚯蚓出づ

蚓も又陰気の者なりて蚯蚓ハうごき出んとする陽気よ

感じて陽気の内へ出るよしなり

蚯ノ蚓ハ即チ地ノ竜一ノ名曲ノ蟺暦解ニ曰ク陰ヲ而屈スルモノ者

乗ジテ陽ニ而伸ノ見スル也

次の五日王瓜生ス

またの名を織編よりかするを生じ六葉栝樓（カラスウリ）ハ

ゆるにて剥のほしきまた実うへ出のうるほして出の気わ

かしてまた出の気に感じて次の五日王瓜（きうり）の生ずる月よ実就

と開き花下に実を結び生ずる時まで熟して陰る

席る鳴る声よの類出る陰気あるの蚯

王瓜ハ土瓜の内にてまた出る八月の頃

淮南鴻烈解云王瓜色赤感火之色而生
圖經云王瓜生于野田沢墻垣葉似括樓
鳥茶圓無子缺有毛如刺蔓生五月開黄
花花下結子如弾丸生青熟赤根似葛細
而多粉又名土瓜一名蔦蝎瓜酔去以為
草蔚本草作萩藂陶隱居非之蓋二物異
種也

小海初の一候菖蒲秀　小海八月中気の菖蒲
の茎の中ほどの茎の味うの茎とたるなるとの
ちかくもりるのひ時ちもりて茎のうへ
いつかはよりの茎へひ月はるるなり

埤雅曰茶若菜也苦菜生於寒秋経冬歴
春至夏乃秀月令孟夏苦菜秀即此是也
此草凌冬不凋故一名遊冬凡此則以四
時制名也

蘐のある靡草枯　五雑組曰靡草蘐苑葶
藶之属非一草也葶苑似人参冬水而生
夏土而死

葶藶葶苑　埤雅曰葶苑葶藶
方氏曰凡物感陽生者疆而感陰生者柔
而靡靡草則至陰所生也故不勝陽而死

[illegible]の穀[illegible]　[illegible]秋百穀みのの熟する時なり
[illegible]時なれども[illegible]月を表[illegible]
秋といふなり

芒種初一候螳螂生　芒種の節の[illegible]
[illegible]
故に初[illegible]
[illegible]月一陰下に生ずるの微
陰の氣感動して螳螂の[illegible]
月令曰螳蜋生蓋是升陰始起殺蟲應而
生要爾雅正義云螳蜋深秋乳子至翌之
初乃生是也

廣義云螳蜋飲風食露感一陰之氣而生
能捕蟬又名殺蟲又曰天鳥言其飛捷如
鳥也深秋生子于林木一殼百子至此時
破殼而出茅中謂之螵蛸生于桑者佳
陰の[illegible]鵙始鳴　鵙も又陰[illegible]
物を害[illegible]の[illegible]
乃氣の感動して鳴るなり
三才圖繪云鵙伯勞也以五月鳴應陰氣
之動陽氣為仁陰氣為殘賊伯勞賊害之
鳥也其聲鵙鵙々故以為名之
陰の[illegible]無変　反舌[illegible]の[illegible]

と変じてなく百舌のなくまねをとするなり故に百舌ともいふ也
いはそ百舌に類す夏は五月より陽気つよくしてのぼりとゞ
まりて一陰下に生じ百舌は陰のうけたる也此月一
陰生ずる故に陰気にあふて変をなすなり
麋角解　冬至十一月の中気也麋は大鹿の生
連なる獣の毛物也是は陽に向ひてはじめて角をおとす理なり
当源は陰のものなり天一地二人三にて一陽ひらく也のなつく
天より一より二となりて一天のひらきにより地二の
陰をうくる也一陽二陰の気をうけて天地の気を
物よく人天一地二小つゝく人三となり人のくはしく生死の中に
て人の生ずるにゆのまゝ天人と三才の三寸とのなり

と三才人の三寸と又三才合する也八九十に至る九は陽の数之
也合する六八十一となる一は又陽数なり月の数なり
甲は八一月より十月陽の又より一となる甲より
数するになると陽の気は陽より貴く天地の
位をうるなり故に人は十月の数に応して十月に
してなるものを順に数なりは八九七十二候
二十陰数にして月の数なり陰は十月より十二月
になるといふなり月は十二辰にて辰は鳥をうるなりぞ
の道にいふ八十一二月にしてなるに七九六十九三候なる
三八小半となり小異なれども天とうるなりての道に又其二三
月にてなるものなり天九八六十の四によりて過ゆ

ゝ月の尉(ブク)樊とゝるゝ所ゝ樊(ハン)ハ四月に成てゝるゝもの
なれハ四月の月ゝるゝ所ゝとゝるゝ事ハ猿(サル)とゝるゝ故
ゝ猿ハ六月に成てゝるゝものゝ月ハ二十の六月なれハ
六律(ロク)とて律とゝるゝ律ハ麋(ヒ)麋とゝるゝ故ゝ麋
麋ハ六月ゝてゝるゝ事ゝ月ゝるゝ故ゝ十二月に一陽生
てゝ月にいゝて六陽ゝるゝ月ゝ一陽ゝ有ゝて陰ゝ
とゝるゝゝ麋(ヒ)麋の角とゝ申ゝ事ハ麋ゝ
六月の精ゝ麋ゝて十二月ゝ月ゝ四月ゝ成ゝ陽ゝ
ゝゝ一陽ゝ有ゝゝ麋ゝ角ゝ成ゝ
ゝゝ麋ゝ角ゝ申ゝゝ月ゝ十月ゝ成ゝ陰ゝ
ゝ陰ゝゝゝ一陽ゝ有ゝゝ十一月ゝゝ麋

ゝ微陽ゝ成ゝ麋ゝゝゝ十一月に角と申ゝゝ
麋麋の角ゝ股(コヽ)ゝゝ合ゝ六ゝ陽ゝゝ角
ゝゝゝ六ゝゝゝ角と申ゝゝ麋ゝ
ゝ

廣義云(ニ)鹿(ハ)山獸形(チ)小属(シ)陽角(ノ)支向(ナフ)前麋(ハ)決
獸形(チ)大属(シ)陰角(ノ)支向(ナフ)後(ニ)
陰の麋ゝ猟始鳴(テ)猟ゝ始ゝ
ゝゝゝ陽類
ゝゝ猟ゝ
ゝゝ陽ゝ
ゝゝ陽ゝ
微陰の気と感ゝ始ゝ

廣義云蜩蟬之大而黑色者按蟬乃総名
鳴于夏為蜩鳴于秋日寒蜩
後の夏より秋へかけて出る夏の半に
出るゆへ夏とつけり
小暑六月の節なり温風至
氏春秋淮南子に温風始至とあり今俗にいふ
暑氣小暑の節温風なり
とつきぬれば日よりにて熱風始て至るなり
後の文自蟋蟀在壁
らくさのもの也四月令に蟋蟀
月令に蟋蟀
後の文雁鳥始鞠
小暑秋の節よりはつし秋は
鞠といひ終りその時なり秋の数なり
さてはてはつるなり秋の
うんとするなり
大暑初の一候腐草化為螢
六月螢蓂
の気をかくしたる暑温
なるものの思へよ

淮南子に鷹化為鳩とあるは
鳩の多き国遊牧なり　鳩の多き所に
の多き時にて古うは少き所にて
あり
鳩の多き所　鳩の多き所にて
なりたるの所に静かにして
すべき時なの所に
なりゆくを
三秋初の一候
風なり
次の多　白露降

鳩の多き所
白露降るなり
鳩の多き　寒蟬鳴　寒蟬郭璞註曰寒時也
而小青色やとそのさ
間く秋を今るの
のまさ八月の
て鳴八月
處暑始一候鷹祭鳥
鳩なり鳩
又鳩頭
ひ月
鳩の殺代の
鳩の動して

廣義云鷹義禽也秋金為義金氣肅殺鷹
感秋氣始捕擊必先祭之猶人飲食必先
祭祖也不擊有胎之禽故曰義
淮南鴻烈解云捕鷙殺鳥於大澤之中四
面陳之世謂之祭鳥始行殺戮順秋氣也
後の宮天花姫信肅　秋ハ殺罰の氣なる故ハ
ものの命を殺すなり
白鷺姫一候鴻雁來　白鷺ハ八月の節なり秋の宮に
鴻雁ハ中漢の中より南へ移るなり
後の一候玉菊の海　玉菊ハ二月の中氣ぶよりの方鶯
谷園より鶯ハ秋分の後の鶯郷の鳥谷園へか
つるなり
後の一候蟲養蟲屋　蟲養ハ蟲の食物
なるものなり淮南子に蟲の淮南子に蟲
の類ハ秋の氣を受て
分ものの面へよりて蟲養をとりて

[illegible]

秋分始の一候雷乃収聲　秋分八月中気の節なり
雷陽物なり此月陰気いまだ強くして陽気潛
伏すれども雷猶収まらざるを収聲と称す
此の一候蟄虫坏戸　陰気物を閉て生ずるを
坏戸と云なり
次の一候水始涸　水の気なり涸は気なり
はるさんなるを涸と云なり秋分八月中
なれば気なんなるを涸と云なり
[illegible]

寒露初の一候鴻雁来賓　寒露八月の節八月より
九月に渡る雁の又来るなり九月に渡る雁の又来るを
賓と云八月より来りて九月に渡る雁の羽翼の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

通書作来濱　濱水際也
次の一候雀入大水化為蛤　雀陽鳥也化
方言曰爵陽類也蛤陰類也戊変者陰之
極也故秋則爵入大水為蛤

五雜俎云中古人常以蛤蜊為秋之千百為群飛噪至水濱鼓蕩
之毎至季秋千百為群蛤蜊北方人常習見
旋舞數四而後入其為蛤與否不可得而
知也然冬月何嘗無蛤或所變者又一種
耶
又云淮南子季秋之月鴻鴈來賓雀入大
水為蛤注云來賓者以初秋先來者為主
而季秋後至者為賓也許叔重解以鴈來
為句而曰賓雀者老雀也棲宿人家如賓
客
俗の一候菊有黄色　菊の黄色なるもあるなり

菊の花ひらくなり一色ならぬもあれど今菊とのみ
いふは秋の気合にて今を盛りとやあるべきなれば
菊は花の王なるべし
古の信ずる所なり今は古はものしてかの菊はいとけ
に文の色なれば菊は花の王なるべし
霜降始一候 豺祭獺 霜降の月中気のあくる
豺の性さけしく角ばきなるがごとくにして秋の気
にて秋肅殺(イミメコロス)とゝくんすれば豺の時の気にあ
てはめるものとなり
とゝそ豺のけものをとらえて天をまつるなり
廣義云 古人以(テ)豺祭獺然(ヨリ)後田猟蓋(シ)干禽
獸毎(ニ)不忍(ビ)殺(スル)又惟肅殺之時豺獺自相食
此時取之

次の一候草木黄落 草木の葉の初つゝり黄落
いつるは古の言葉にて草木は落葉をいひて
草すゝくは月は信のゝ月にあたりて四の数なる所
は草のゝ色のよりもの色のゝ黄ばみくなるなり
信の一候蟄虫咸俯 古中にてかくもの咸
ふくして信分肅殺気をうけるなり
三冬秋の一候水始成氷 三冬十月の気初の
信は冬をうつるひ月信気のゝ月にあたる

初くこれをうるの
次の宮地姫(テヒル)　宮ちゑの法
宮ちゑにあれらまく初めて法るなり
後の宮雅入(テニ)大の高麗(うちうらこま)　麗(ヒニ)を大輪(ヲヽバクリ)とするわやまり
ちの方人(ヒ)蹴麗(サメ)と同しものを称しいまの世に蹴麗(ミツチ)
ちの人(ヒ)雪とすす物ちの麗(ミツチ)もし輪(ヒ)てのこの法のそ人
ち雪とすすちの麗に埋雅を乗するの麗のかちの地
のかちてちるも地ちのかちるちして蹴ちりト
ようちとちるちまんわりのちをちくちれ麗ハ輪(ヒ)て
なるのあちるけ又の雅(ヒ)雅ハ中地乃雪化して
ちるちのと雪の時民庫のかちの雅ちの雅ちくを

あちとちれて地(ヒノモスケ)蹴のかちしとを麗ハくちちとを
もちを類のちくちとちてを雅(ヒ)ちてちを物ちくを
陽歌ちの麗ハのハちを陽歌ちの麗ハのハちを陽歌ちの月法のさちを麗
にをのちちようちりて大のちハくちハちとちるを

蜃

爾雅曰蜃小者珧是以蜃為蚌屬
羅願曰蜃大蛤也故海中車螯亦有謂之
蜃者然古人蛟蜃同称若蚌蛤屬豈能變
化為人害
陸佃埤雅云蜃形如虵而大腹以下鱗盡
逆
五雜俎曰雉入大水為蜃雉本虵所化晉
武庫中雉飛而得虵蛻是也則入水為蜃
亦從其類耳
小雪初の一候虹蜃を見
虹は陰陽のまじらるるひ月は陰ばかりにて陽なる

はこれ世をさくわしきなり
此の一候天気上騰り地気下降て天地交らず此月は陰きはまりて陽
すこし上へきざす天地の気ふさがりて通せざるゆへに冬の気
このゆへのぼりて地気はさがりふさがるそ天地の気の海
しるなはすくして天は天のこ境は地にぬく秋冬を廻
後の一候陽気閉塞す 陰気のこさかんなる也是は冬陽
の気はしらさがりて冬の陰寒の気のこ重とこる
ひらくるなり
大雪初の一候鶡鴠不鳴 大雪は十一月の節也
鶡鴠は呂氏春秋の註に山鳥なりとありさて鶡鴠は
寒さをこらへかねてなくもの也陰気のきはまりには声なき

すのくわしき所務は此時は陰の極く陽のかくむしろまその
すのび月は一陽きざして時は陽の生ずるしく鳴さざるは
ゆゑにならぬ事にてかるなるもとは秋の末よりの毅とてなく
なきなり
次の一候虎始交 蠡海集云走獣属は陰ときに
わりなそてまけくしていはく陰気の盛る初る虎
を陰類なりゆゑに陽きざせば虎たけりていままでのうれしも虎
は交るのみなりてこの陰中は陽をきざせむとりまさるのや
此月は一陽初めてきざとしては陰中は一陽をうまむる事速し
ての名のまにより秋くはかしきなり 呂氏春秋註
曰く虎は陽中の陰とし陽気盛て以て類を孕やと其の陽気

と考ふるに十百八合中に陽とうつる月は桑海なる走
獸陸に屬してあり此獸や寅の性を受くして地を穀
蓄をそなへ人もまたこれをそなへ人にあり人民
とも此陸中に陽とうつるものなんの
海の一候蒲挺おス　蒲は蘆蒲也今のうち刈菖蒲
又ようく蒲は菖に似テ　根かたるりとあり月令廣
義鄭康成蔡邕高誘の輩皆蒲離とその場のる
ぶんがたのもの挺あり　挺ハ生ずるなり

菖

廣義云本草謂荔為蠡實即馬薤鄭康成
蔡邕高誘皆然說文云荔似蒲而小根興
本草同但陳皓注為香草附和者即以為
零陵香殊不知零陵香自生于三月也

十一月中氣の名と物候
八純陽の氣を感じて
ひすがらの一候麋角解　陰氣にして麋角を解く
ものなり麋は十月微陽の氣を感じて角を解
すと麋鹿角を解くなり

陰の一候水始動　水泉天一の生ずる所にして
陽より生ずるものなり十月一陽生ず故に陽生
てあらうらくるり
小寒の一候鴈北郷　鴈北方に移り
寒鳥なれども北方に出ずるなり
故に方位を指して北郷と
為るなり
鴈は南方に移り
ものなり郷の字古文に向に作る
て十月の候なり古郷に向ふなり
次の一候鵲始巢　鵲陽鳥にして陽の氣を受く
うくるものなり故に次の候
始く樹に巣くるなり

海の内雉時雉　雉八陽類なり毛羽美なり海
てうちゝとゝ六出の花の如くなるを海の内陽
気いまだ盛んなる故なり海の内陽
雉てゝとゝ鳴くなり感動しやすく和
鳴とあるなり　詩曰雉之朝雊尚求其
雌　大寒初の一候鶏始乳　十二月の中気の
鶏は陽物なれば乳を始めるなり
四十日鶏雛乳を育て卵の内に孵
てつゝみくゝまれたりて卵の内に孵
化の一候征鳥厲疾　海は肅殺の令をつゝしん
なり秋冬にあの海気もつゝしみ四月
寒気の数気のなるにしたがひてとゝまりかくれ
かくれ海の内にとゝまりて征鳥猛鳥の
ごとく厲疾通解の義云征鳥斉人謂之擊征
或曰鷹とあるなり
海の一候況膠堅冰　和名抄に膠
海面のこうすくこおりて氷の海
のごとくにかたく氷の海

或曰七十二倭者年中氣令不可不知者也況旋屬圖畫之而在皇邸在構子所目覩往々有之然不知其理何如矣茫乎如向若願乞以倭字註解之曰予早陋何鑿其覔乎或乞不輟故不能固辭終採拾台人言而述其大槩合迨歲時故實條録之而為世人談具一目書堂白水來予館録梓求板行之予覩之目於戲汝林氏欲旌吾瑕釁耶然於亥理之物十而知其一二亦勝愚而輟見者庶乎以燕相舉燭爲舉賢之辨學者亦幸莫訝倭字焉貞享丙寅